

報道ご関係者各位

U Aゼンセン日本介護クラフトユニオン(NCCU)

**最終結果****『新型コロナウイルスに関する緊急アンケート』****衛生用品の不足状況は改善みられず。さらに新たな課題も。**

日常的な人手不足がさらに加速する懸念。訪問介護の現場はなす術なく不安広がる

全国の介護従事者 約 8 万 4,000 人が集まる職業別労働組合 日本介護クラフトユニオン (東京都港区、会長 久保芳信、略称 NCCU) は、新型コロナウイルスの国内感染の拡大が懸念される状況を受け、組合員の勤務する 全国 4,043 の介護事業所を対象に 2 月 28 日から 3 月 4 日まで緊急アンケートを実施しました。

期間中に寄せられた 1,437 事業所からの回答をまとめた最終結果をご報告します。**調査概要**

■調査名：『新型コロナウイルスに関する緊急アンケート』

■対象：日本介護クラフトユニオンの組合員が働く全国 4,043 の介護事業所

■回答数：1,437 事業所 (回答率 35.5%)

■期間：2020年2月28日(金)～3月4日(水)

■調査方法：上記事業所あてに一斉FAX。管理者等が記入し、FAXにて回答。

最終結果をとりまとめたところ、衛生用品の不足をはじめとする介護現場の状況は 3 月 2 日公表の中間報告 (3 月 1 日迄の回答分)と同様で、大きな変化や改善の兆しは見られませんでした。

一方で、「国や行政への要望はありますか？」との設問に対する回答 (自由記述) を分析した結果、数字には表れない新たな課題が浮き彫りになりました。

**自由記述の分析から浮かんだ課題****小中高校などの一斉臨時休校について**

介護現場の人手不足が加速し、過重労働や利用者への悪影響の懸念がある

**テレワークや時差出勤の推進について**

介護業界では、そもそもそのような働き方を選べない

**デイサービス等において発熱のために利用を断った利用者には****訪問介護等の提供を検討する との厚労省事務連絡について**

日常的な人手不足の中、急なシフト追加には対応しきれない

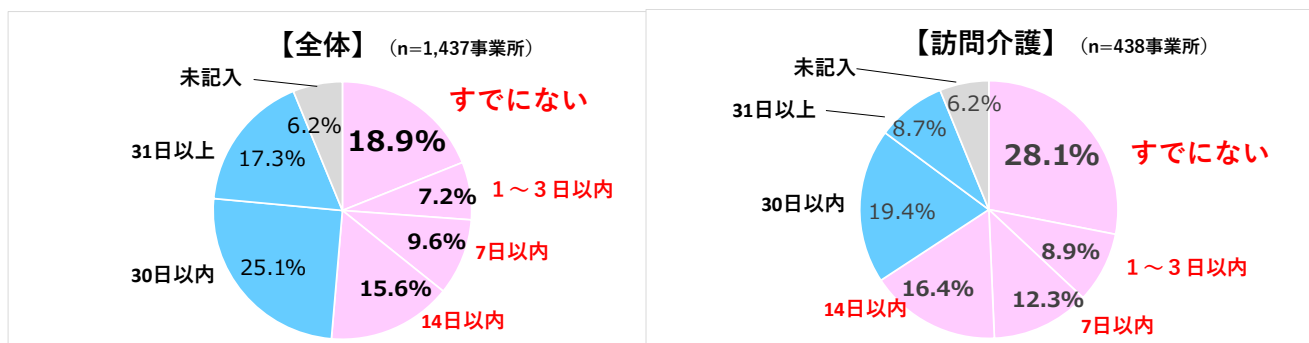
訪問介護員は法律上、利用者に市販薬を飲ませることさえできない

## 衛生用品の過不足状況について（最終結果）

衛生用品（マスク、消毒液、介護用手袋、うがい薬等）はそろっていますか？（複数回答）

		全体 (n=1,437 事業所)		訪問介護 (n=438 事業所)	
そろっていて、十分余裕がある		112 カ所	7.8 %	15 カ所	3.4 %
そろっているが、余裕がない		896 カ所	62.4 %	248 カ所	56.6 %
内訳	マスク	677 カ所	47.1 %	192 カ所	43.8 %
	消毒液	425 カ所	29.6 %	116 カ所	26.5 %
	手袋	122 カ所	8.5 %	38 カ所	8.7 %
	うがい薬	70 カ所	4.9 %	18 カ所	4.1 %
そろっていない		501 カ所	34.9 %	200 カ所	45.7 %
内訳	マスク	442 カ所	30.8 %	185 カ所	42.2 %
	消毒液	242 カ所	16.8 %	94 カ所	21.5 %
	手袋	50 カ所	3.5 %	15 カ所	3.4 %
	うがい薬	79 カ所	5.5 %	29 カ所	6.6 %

マスクの在庫は何日分、確保できていますか？



## 国、自治体の対応に関して（最終結果）

厚生労働省は、都道府県に向けて、管内の全介護サービス事業所の各種衛生用品の不足状況を把握するよう指示を出しています。

あなたの事業所には、都道府県や市町村の介護保険担当からの調査がありましたか？

全体 (1437事業所)	あった	22.4%
	まだない	65.4%
	わからない	11.0%
	無回答	1.2%

厚生労働省は、高齢者への対応については、「37.5度以上の発熱または呼吸器症状が2日以上続いた場合には、保健所に設置されている『帰国者・接触者相談センター』に電話連絡し、指示を受けること」としています。

これについてどう思いますか？（複数回答）

全体 (1437事業所)	他の利用者や職員に感染しないか不安	77.3%
	2日も待たずにもっと早く処置できるよう指示してほしい	54.4%
	37.5℃以上になっても2日も待つことが不安	49.4%
	適切な指示だと思う	6.2%

## 日本介護クラフトユニオン（NCCU）の見解

今回の『新型コロナウイルスに関する緊急アンケート』の結果を見ると、介護現場の衛生用品の不足が深刻な状況であることは明らかです。日本介護クラフトユニオン（NCCU）は、医療・介護・福祉等の現場に優先的に必要な衛生用品が行き届くよう、政府が衛生用品の流通先を管理すべきと考えます。また、自由記述に記載された主な内容から分析した結果、新たに以下の課題も浮き彫りになりました。

**■政府が突然発表した「小中高校などの一斉臨時休校」について**

特に低学年の児童の保護者が仕事を休まざるを得ない状況が発生する、またはすでに発生している、という訴えが多く寄せられました。日常的に人手不足が課題となっている介護業界はさらなる人手不足に陥り、利用者へのサービス提供体制への悪影響や、他の職員の過重労働の発生などが懸念されます。

**■国が推進するテレワークや時差出勤などについて**

感染拡大防止のための働き方としては理解しますが、24時間介護サービスを必要とするご利用者がいる現場では、そのような働き方ができないことは容易に想像できるはずで

す。現場からは「あまりにも急すぎる」「調整する期間がほしかった」等、政府の決定に対して「拙速な判断だ」という意見が数多く寄せられました。

上記について日本介護クラフトユニオンは、国に対して、介護業界で喫緊の課題となっている人材不足への支援とともに、介護従事者が抱く懸念事項の解決策を示すよう求めています。

**■デイサービス、ショートステイ等での感染拡大を防止するため「(利用者に)発熱がある場合は利用を断る取扱いとし、利用を断った利用者については必要に応じ訪問介護等の提供を検討する」との厚生労働省事務連絡について**（介護保険最新情報 Vol. 769 令和2年2月24日）

介護業界の中でも最も人手不足が深刻な訪問介護の現場からは、「急なシフト追加は対応しきれない」「学校が休みになり仕事を休まざるを得ないスタッフも増え、サービスを提供できない」等の意見が寄せられており、訪問介護員の不足により支援が行き届かないケースが発生することが懸念されます。

また、「事業所のマスクは在庫ゼロ。訪問介護は『最後の砦』と言われる割には、ヘルパーに対する扱いが雑すぎる」等、必要な衛生用品すら整っていない中で、医療専門職ではない訪問介護員が発熱している要介護者への対応を行うことへの不安も発生しています。

**■「高齢者は37.5度以上の発熱が2日間以上続いた場合には『帰国者・接触者相談センター』に電話連絡し、指示を受ける」との厚生労働省事務連絡について**（介護保険最新情報 Vol. 768 令和2年2月24日）

何らかの疾患により発熱した要介護者への対応を訪問介護事業所に移行しても、医師や薬剤師等の医療関係の専門職ではない訪問介護員は、法律上、一般市販薬による一時的な対症療法すら行うことはできず2日間の経過観察中に医療的処置をなす術はありません。

上記の厚生労働省の通達は、感染拡大を防ぐ措置としては有効であったとしても、発熱した要介護者に対しての適切な対応方法とはいえません。

日本介護クラフトユニオンは、訪問診療医や薬局と訪問介護事業所との連携強化策など、現在の対応方法にある課題を克服するための具体的施策を早急に示すよう、国をはじめ自治体に対して求めています。

**日本介護クラフトユニオン 概要**

■組織名：UA ゼンセン 日本介護クラフトユニオン（略称：NCCU）

■所在地：東京都港区芝2-20-12 友愛会館13階

■会長：久保芳信

■URL：<https://www.nccu.gr.jp/>

■本件に関するお問い合わせ（平日9:00~17:15）：**03-5730-9381**（政策部門）